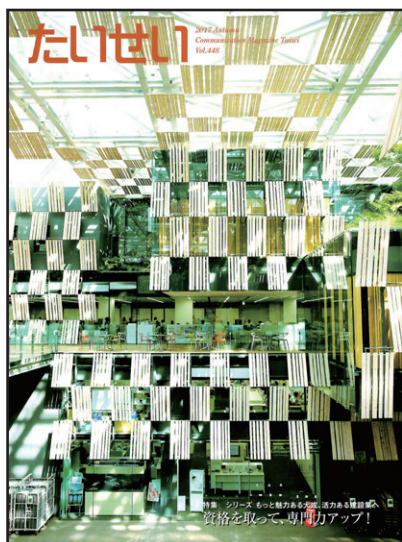




「2017 Autumn たいせい」(大成建設社内報)

2017年8月発行

①～⑥写真提供: シネマ・チュプキ・タバタ



- ①シアターの音響設計には著名な音響監督、岩浪美和氏や音響メーカーが協力。小規模ながら最高の音環境を実現している
- ②ぐずったり、泣き出したりした赤ちゃんやお子さんと一緒に安心な親子鑑賞室
- ③聴覚障がい者のために、映画の音を振動で感じられる「抱っこスピーカー」も用意
- ④全席に完備された音声ガイド用の機器
- ⑤音声ガイドのナレーション実践講座の様子
- ⑥映画館開設という「一世一代の夢」に奔走してきた平塚さん。日本各地に個性豊かなユニバーサル映画館ができてほしい。そのお手本になれば」と力を込める

Human Rights No.72

大成建設人権啓発推進委員会

ハッピー・アクション vol.14

誰もが一緒に楽しめる 日本初の ユニバーサル映画館

日本で初めての
ユニバーサル映画館
「シネマ・チュプキ・タバタ」
を訪ねました。



ナビゲーター
中野世子さん
(NHK手話ニュースキャスター)

田 端駅からほど近い商店街に、約20席の小さな映画館があります。アイヌ語で「自然の光」の名を持つ「シネマ・チュプキ・タバタ」。昨年9月に誕生した日本初のユニバーサル映画館です。

視覚障がい者が情景を思い描けるよう、全席に音声ガイド用の機器を完備。イヤホンをすれば、台詞に加え、登場人物の動きや場面を説明する音声が開いてきます。右手で絵筆をとる。画用紙にオレンジ色の水平線を描く。スクリーンには、海をスケッチする少女の姿。この日上映されているアニメ映画『この世界の片隅に』の「コマです」。

「映画は喜びや感動、時に痛みや哀しみを分かち合い、人生に寄り添ってくれます。障がいの有無に関わらず、誰もが一緒に映画で笑い、泣ける場を築きたい。その思いが出発点でした」と語るのは、同館の運営にあたる市民団体シテイ・ライツ代表の平塚千穂子さんです。同団体では15年ほど前から、当時はほぼ皆無だった音声ガイド付きの映画上映会を開催してきました。「私自身、この活動に携わる前は、目の不自由な人が映画を」と疑問で、でも参加した皆さんの「あきらめていたからうれしい」「もっと映画をみたい」という声を伺い、想像力をかきたてる音声ガイドがつけば、耳で映画をみることもできると知ったのです。静かに共感の輪が広がる中、平塚さんたちは一

限りの上映イベントにとどまらない、常設の映画館づくりを決意します。開設資金はクラウドファンディングで調達。多くの寄付や応援の声が寄せられました。「いろいろなご縁が生まれる中、視覚だけでなく、聴覚や身体に障がいのある方、乳幼児連れの方など、これまで映画館に行くことをためらっていた全ての方たちが集える場にした」と夢が広がって……。そうして小さいながらも温かみのある映画館ができました。

館内には車椅子スペースや、防音完備の親子鑑賞室を設置。聴覚障がい者のために邦画にも字幕を付けています。日本ではまだ普及率の低い音声ガイドのナレーションや台本作などのワークショップにも力を入れ、注目を集めています。

開館から1年。映画を愛するさまざまな人が集う場として、存在を高めている同館。作品を深く味わいたい、音声ガイドを利用する健常者も少なくないそうです。映画好きの方はぜひ足を運ばれてみては?

今回訪ねた場所

CINEMA Chupki TABATA

新旧織り交ぜた数作品を月替わりで上映。ナレーション講座等、各種ワークショップも開催。シアターのレンタルも行っている。東京都北区唯一の映画館として、地元の映画ファンやオアシス的な存在でもある。この10月には、平塚さんおすすめの「フランカとキター」(長谷井宏紀監督)を公開

TEL&FAX
03-6240-8480
http://chupki.jp
org/

